



No. 77

The University of Tokyo Forests News 科学の森ニュース

March 10, 2017

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

秩父演習林創立 100 周年記念行事を開催

秩父演習林

2016年11月5日（土）、秩父演習林創立100周年記念式典が開催されました。式典には、来賓の秩父市長、研究科長、演習林長をはじめ、78名の方々に参加いただきました。式典では、秩父演習林とかかわりの深い企業や先生方による講演が行われ、秩父演習林100年の変遷や研究成果について、科学的分析や思い出を交えてお話しいただきました。

式典に参加された方々には、記念品としてフォトスタンドとペーパーウェイトをお持ち帰りいただきました。フォトスタンドは秩父演習林産のモミ、コシアブラ、ダケカンバ、ブナ、ミズナラの5種の材を張り合わせて作成したもの、ペーパーウェイトはかつて木材搬出に活躍した入川森林軌道のレールを切断して加工したものです。どちらも大変、好評でした。



（左）式典の様子 （右下）フォトスタンドとペーパーウェイト

東京大学教職員向けリース作り体験会

田無演習林

2016年12月4日(日)、今回で5回目となる東京大学教職員とその家族を対象としたリース作り体験会を行い、製作者35人、同伴者を含めて合計58人の方にご参加いただきました。午前中は紅葉の季節の森林を職員の案内により見学しながら、材料を採集しました。午後はリース作りの説明を受けた後、北海道や富士など他の演習林から提供された松ぼっくりも含む、ふんだんな素材から好きなものを選び、製作にとりかかりました。森の香りを感じながら、時間を忘れるほど夢中になって製作し、それぞれ満足のいく作品を作ることができたようです。



演習林で集めた素材でリース作り

ドラム缶簡易炭窯リニューアル

樹芸研究所

樹芸研究所では、全学体験ゼミナールのプログラムに簡易炭窯による竹炭焼き体験を取り入れています。このほど2016年11月に6年間使用し老朽化したドラム缶簡易炭窯をリニューアルしました。炭窯の保温性と密閉性を高めるため、ドラム缶を囲む土止めにブロックを使用するなど改良を施しました。また同時に、炭窯を覆う屋根の建て替えも行いました。以前より明るく広くなったため、炭焼きの煙が逃げやすく、より安全に作業できる環境作りが出来ました。



新しい窯で炭焼きをするゼミ参加学生

海南大学と東京大学の合同シンポジウムが開催されました

教育研究センター

2016年12月5日(月)、海南大学と東京大学の合同シンポジウムが中島記念ホールで開催され、両大学の学術交流協定に関するセレモニーと懇親会が行われました。翌日、両大学から関連する専攻・研究室の概要や研究紹介が行われ、和やかな雰囲気の中でシンポジウムが終了しました。7日～9日のエクスカージョンでは、浜離宮や明治神宮、さらに箱根や富士などを訪問しました。海南大学の発表メンバーの一人であった徐詩濤先生は、12月1日から2月末まで東京大学の特任准教授として招聘されており、1月の演習林ゼミでも発表していただきました。

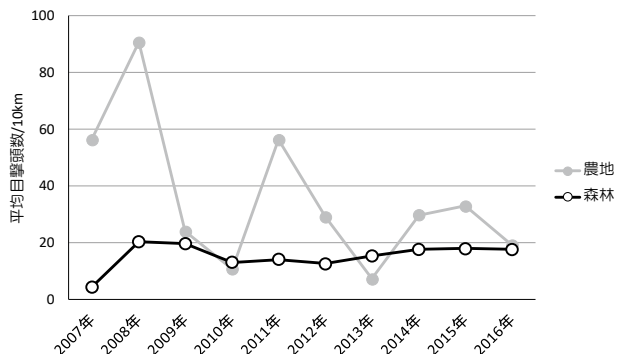


特任准教授として演習林に所属されている徐先生のプレゼンテーション

北海道ではエゾシカにより農林業被害が発生しています。演習林のある富良野市では、年間7千万円を超える農業被害の一方で森林被害は幸い顕著ではありませんが、道内には深刻な森林被害を受けている地域もあります。こうした被害の発生を予測し、被害が発生した場合に迅速な対策を講じるためには、普段からエゾシカの生息密度や生態を把握しておくことが必要です。

北海道演習林では、2007年から毎年11月の連続した3夜に、演習林内（以下、森林）と演習林に隣接する農地（以下、農地）でライトセンサスを実施しています。ライトセンサスとは、設定したコース上を低速で走行する車両からライトを照射し、発見した動物の頭数、構成（幼獣、雄、雌）、利用環境等を記録する調査のことです。当初は森林4コース、農地5コースでしたが、2010年以降は北海道が実施するセンサスコースと重複することなどから、森林3コース、農地2コースに規模を縮小して継続しています。

10年間の結果として、10kmあたりの平均目撃頭数の推移を振り返ってみましょう（図）。森林では平均目撃頭数が20頭以下で安定的に推移していますが、農地では高い年で90頭、低い年で10頭以下と、不規則かつ大幅に変動しています。平均目撃頭数が20頭/10km未満は低密度地域、20～100頭/10kmは中密度地域とされることから*、森林では低密度で安定している一方で、農地では低～中密度で大きく変動していると考えられます。農地ではなにが起きているのでしょうか。変動の要因として、狩猟による捕獲圧や、調査時の天候の影響などが考えられますが、明確な答えはわかっていません。今後も調査を継続することで、エゾシカのみぞ知るその答えに、辿り着けるかもしれません。



* 梶光一ほか(2006)「エゾシカの保全と管理」北海道大学出版会。

図. 森林と農地別の10kmあたりの平均目撃頭数

演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧ください。各地方演習林にお問い合わせください。

【3月】

- 1日 千葉演習林「冬の研修会」※千葉演習林教職員対象◆(千葉)
- 4日 千葉県森林インストラクター会「東大演習林を学ぶ会」◆(千葉)
- 8日 公開講座「富士癒しの森研究所研究報告会2016」(富士)
- 9-13日 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ3」☆(樹芸)
- 11-12日 千葉演習林ボランティア会 Abies
「総会と演習林を歩こう」◆(千葉)
- 19日 久留里城址資料館「川越藩の番所を歩く」◆(千葉)
- 22-24日 体験活動プログラム「南伊豆という
一地域との連携に学ぶ」☆(樹芸)

【4月】

- 8日 鴨川市共同事業「野鳥の巣箱をかけよう(野鳥観察会)」(千葉)
- 8日 木材・合板博物館「見学会」◆(千葉)
- 8-9日 千葉県森林インストラクター会 宿泊研修◆(千葉)
- 15日 犬山研究林利用者協議会「春のふれあい自然観察会」(生水研)
- 16日 シデコブシの会「シデコブシの会総会 植物調査」(生水研)
- 16-17日 富士五湖フットパスフォーラム◆(富士)

- 22日 教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」◆(富士)
- 22-23日 千葉演習林一般公開「春の郷土畑へ行こう！」(千葉)
- 29日 休日公開(田無)
- 29日 ツリークライミング体験会(田無)

【5月】

- 6-7日 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」☆(富士)
- 7日 休日公開(田無)
- 13-14日 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」☆(秩父)
- 20日 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」☆(千葉)
- 22-23日 千葉演習林「利用者説明会」◆(千葉)
- 24日 利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会◆(生水研)
- 27-28日 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」☆(秩父)
- 28日 神社山自然観察路春季一般公開(北海道)

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他
(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

科学の森の動植物紹介

ヤマネ
ヤマネ科 ヤマネ属
学名：*Glirulus japonicus*

秩父演習林

秩父演習林では、樹上に自動撮影カメラを設置して鳥類調査を行っていますが、森林内のカメラには、鳥類以外にも様々な動物が写ります。今回はその中から、ヤマネをご紹介します。ヤマネは地上のカメラにはほとんど写りませんが、樹上ではたびたび撮影されます。夜行性のため、夜中にばかり写りますが、枝の上を機敏に動き回っています。ヤマネは、一番多く写るリスよりも小さく、背中に黒い線があるのが特徴です。1年の半分を冬眠するので、今は見ることはできませんが、また暖かくなったら樹上カメラの前に姿を見せてくれることでしょう。



バケツの中にいたヤマネ（左）と樹上画像（右）

コラム

森林風景計画とは??

生態水文学研究所 水内 佑輔

森林風景計画は、風景を操作論的に取り扱いの対象とする学問体系で、その源流は本多静六にたどり着きます。風景とは人と環境の間に生じる現象であって、自然環境だけでなく歴史や文化の価値を伴うものであり、人間の環境への価値判断であるともいえます。湯気のような捉えどころのないものをいかに計測・計画化していくかが、風景計画の難しさであり面白さかもしれません。これまで、風景を測定する場合、SD法¹⁾などを用いて人間の心理的評価を行うのが主流でした。素手で豆腐を切るような精度と言われたりもしますが、風景の評価を定量的に把握できるという点で効果的です。しかし、その多くは写真などを対象とした室内実験であり、適用するには限界や違和感があるのも事実です。

そこで現在、実際の現場で調査実験を行うために、GPSやGISなどの空間情報技術を活用しながら、より空間的に人と環境の関係を捉えるアプローチで研究を進めています。調査実験が行える絶好の場として演習林を活用して森林風景計画を追求しながら、同時に短くない歴史を持つ演習林の風景的価値も明らかにしてみたいと考えています。

1) SD法：試料の持つ主観的なイメージをアンケートで調査する方法



本多静六 田村剛による霧島公園計画図（1920）：現在の霧島錦江湾国立公園の基となったものです。

※本コラムは、2016年9月から新たに演習林教員に加わった、水内佑輔助教に執筆していただきました。（科学の森ニュース編集委員会）

科学の森ニュース（The University of Tokyo Forests News）

第77号（No. 77）

発行日 平成29年3月10日

発行人 富樫一巳

編集人 後藤 晋

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2015@uf.a.u-tokyo.ac.jp